

## 2022(令和4)年度 書道 I シラバス

教科	科目	単位数	履修	対象学年
芸術	書道 I	前期 1 単位 後期 1 単位	選択必修履修	2・3・4年

### 1. 学習目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

### 2. 授業の概要

- ①「漢字の書」の学習では、書体の変遷の過程や種類、また、臨書学習の意義や拓本の種類などについて理解する。基本的な用筆・運筆・字形・全体の構成について理解し、鑑賞する。臨書学習を中心として基本的な技能を身につける。
- ②「仮名の書」の学習では、仮名の成立や仮名の種類などについて理解する。また、仮名の用具・用材の種類と特徴や仮名の基本的な線の書き方、運筆について理解し、練習する。
- ③「漢字仮名交じりの書」では、漢字の楷書・行書と仮名への調和を確認することで、書体のもたらす印象の違いなどに気づかせたい。

### 3. 学習方法

- ①教科書に掲載されている古典の臨書を中心に学習する。
- ②古典の学習をもとに、作品を構想し表現を工夫して作品を制作する。
- ③毎時間「学習記録プリント」を記入する。

### 4. 使用教科書

「書道 I」 教育出版 【17 教出 書 I 704】

### 5. 評価の観点

- ①知識・技能・
  - ・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。
  - ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表している。
- ②思考・判断・表現
  - ・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。
- ③主体的に学習に取り組む態度
  - ・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

### 6 評価の方法

- ① 出席状況。
- ② 用具・用材の扱いを含めた授業への取り組み方や態度。
- ③ 「学習記録」の記入状況。
- ④ 提出作品。  
「知識・技能」・「思考・判断・表現」・「主体的に学習に取り組む態度」の観点別評価で行う

### 8 書道を受けるに当たって守って欲しい事項

- ①書道の授業は準備と後片付けにある程度時間を割かなければなりません。より充実した授業内容になるように、それらを円滑に行って下さい。授業開始の時には、きちんと着席して準備を完了させておいて下さい。授業終了10分前には、後片付けに取りかかれるようにしましょう。
- ②個人の用具、および学校の備品は大切に扱きましょう。特に筆と硯は毎時間ごとに丁寧に洗って下さい。
- ③次の人の為に、後片付けはきちんとしましょう。